

# 次世代・レジリエント都市研究室

教員: 浦田 淳司 准教授 [urata.junji.gf@u.tsukuba.ac.jp](mailto:urata.junji.gf@u.tsukuba.ac.jp)

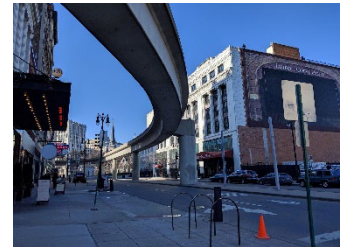
## 自己紹介



はじめまして。浦田淳司です。4月から筑波大にやってきました。研究は、避難行動分析や災害復旧期の都市活動シミュレータの構築などを主にやっています。一昨年から、バス網の最適設計や都市の定量評価などを研究対象とし、4月からは、スマートシティや地域エネルギーの問題についても取り組んでいます。研究室にはまだ学生はおらず、できたばかりです。一緒に研究室をつくっていただけたらと思っています。質問ありましたら、気軽に連絡ください。

## どんな研究室？

次世代・レジリエント都市研究室は、次世代の交通・都市システムを取り入れた都市、または災害などの将来の危機にレジリエントな都市の形成に向けて、研究・開発・活動を行う研究室です。



大学で先端的な研究を志す中で、今の交通・都市のあり方に満足せず、

- ・ 次世代に向けて、新しいテクノロジー・技術を取り入れ、新たなシステムを交通・都市の中で構築していきたいという想い
- ・ 日本や世界各地で災害・紛争などの危機が現在また将来生じるという中で、都市自体をよりレジリエントなものに変えていきたいという想い

の二つの想いを持って、名づけました。

## Q&A ※HPにもQ&Aなど、色々なコンテンツがあるので、見てみてください。

Q1: 研究テーマはどのように決まりますか？

A1: 学生さんの希望を聞いた上で、指導可能なトピックやアプローチを示して、話し合いながら、決めていきます。学生さんの希望をもちろん重視しますが、同時に、研究を通じて、専門性を高められるよう、指導したいと思っています。

Q2: どんな卒業研究・修士研究の進め方になりますか？

A2: 週1回ほどの個別打合せを中心に進めていきます。打合せ以外にも、teams やメールでやりとりしたり、雑談したり、様子・進捗をみながら、柔軟に進めていきます。合宿的に集中して議論することで進むこともこれまでありました。

Q3: 研究室のイベントはどんなものがありますか？

A3: あまり決まっていませんが、僕自身、学生時代に様々な場所に連れていってもらいながら、学びました。プロジェクトや見学、研究室合宿、合同ゼミ等で、現場も巡り、議論もしながら、互いに成長できる機会を作っていく予定です。



研究室 HP



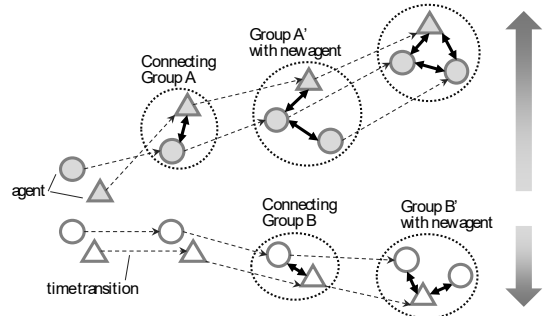
LAB.FOR.RESILIENT.FUTURE.CITY

※研究室説明会を開催予定です、詳しくはHPで。

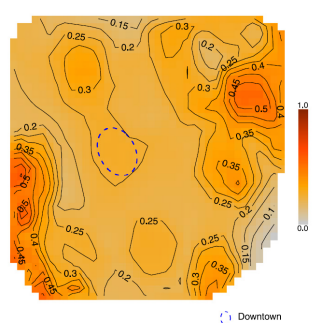
## どんな研究があるの？

※過去の研究の一例です。卒修論テーマは相談しながら設定します。

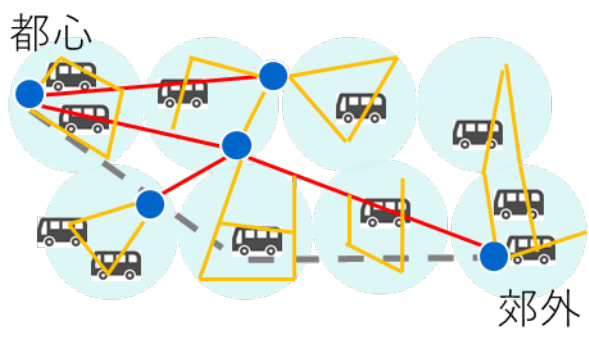
### 相互・動学・不確実性と意思決定



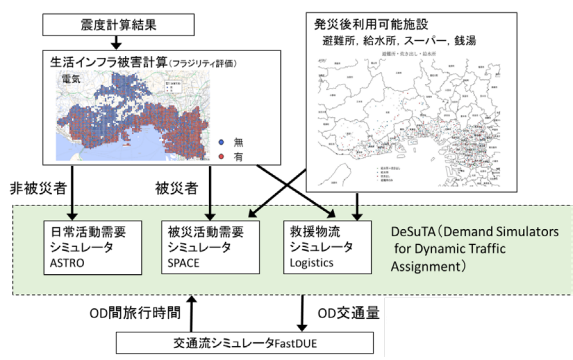
### 空間行動データ解析



### 予測に基づく交通網デザイン



### 復旧期の都市・交通シミュレーション



卒論・修論のテーマ例：地域における自律的エネルギーマネジメント、低人口密度地域における移動支援方策、災害復旧活動シミュレータの開発、災害復旧期における行動-データ特性分析、幹線-フィーダー型バスネットワークデザイン、言語モデルによる対話型意識調査システム 等

## Q&A



宇和島での地元発表会



現地見学 (熊本・益城)

Q4: 過去の研究をみると、数理的な研究が多いですが、？  
 A4: 確かにこれまでは数理アプローチを取り入れた研究は多いです。ただ、この1・2年で、スマートシティや地方都市の生活利便性など、まちづくり・都市計画のプロジェクトに関わることも増えており、地域住民の声・行動の調査を取り入れた研究も増えていく予定です。

Q5: 研究指導は厳しいですか？  
 A5: 厳しすぎもせず、甘すぎもせず、と自分では思っています。修論では自分で考えたという達成感、卒論では自分でも自分でやったという達成感を、最低限、得てもらいたいと思って、指導しています。やりたい人にはほとんど付き合い、やりたくない人(?)も、話し合いながら、研究をやる中で、対象を面白く・楽しく感じてほしいと思いながら、僕自身、日々試行錯誤します。